国際理解講演会

１２月１７日（木）４限
『国際貢献をするということ
――　アジアの村々から学ぶ』

今回の国際理解講演会は、公益財団法人ＰＨＤ協会から今里氏、田尻氏、インドネシア研修生のシャフルル（ゾン）氏、ネパールの研修生のカンチ氏をお迎えし、研修生の方々の出身の村の話、日本での生活・研修について、村の文化・生活の紹介などをしていただきました。学校の中だけでは知ることのできない、インドネシアやネパールの村の実際の生活の様子を知ることができ、国際貢献について考える機会となりました。

鳴尾高校に講師として来てくださった方々です。

インドネシア研修生のシャフルル（ゾン）さんの自己紹介と、村での生活のお話を聞いています。

ネパール研修生のカンチさんの村は、４月２５日の大地震の被害を受け、厳しい生活です。

【生徒の感想より（抜粋)】

・本日は素晴らしい講演会をありがとうございました。私自身も国際貢献に興味があり、青年海外協力隊で行きたいと思っています。また、研修生の２人から見た日本の課題が、なるほどと思わされました。今回の講演を聞いて、自分の視野が広がりました。

・ＰＨＤ協会の方々の話を聞いて、世界には病気になっても病院に行けない人や、お金がなくて出稼ぎに行かなければならない人がたくさんいるということが改めてわかりました。日本人が現地に行くことや、お金を渡すことだけが支援することではないとおっしゃっていましたが、もっと日本が外国の研修生の方を受け入れたり、技術を教えたりすることが本当の支援だと思いました。色々知らない話が聞けてよかったです。

・与えるのではなく、互いに学ぶという活動方針にとても感銘を受けました。きっと日本人よりアジアの村々の方のほうが学ぶことに貪欲だと思います。８ヶ月であのレベルまで日本語を話せたり、お正月も勉強したいと思う探究心を見習いたいです。国際看護に興味があるのですが、やはり村での保健衛生は技術だけで貢献できる分野ではないなと感じました。「では、何が必要なのか」という疑問を投げかけられた講演会でした。

・ＰＨＤ協会というのは初めて聞いたけれど、活動内容を知ることができてよかったです。私は、今まで日本人が貧しい国に行って手助けをするというのが支援だと思っていたので、逆に日本に来て学んでもらうという活動が素晴らしいと思いました。それぞれの国の問題や、日本の問題も知ることができて、何か自分に協力できることがあれば少しでもいいのでやってみたいと思いました。